

## 自己点検報告書

2019 年 9 月 27 日

動物実験委員長

丸山 みゆき

調査対象期間：2018 年 7 月 1 日～2019 年 6 月 30 日

点検項目	点検結果
規則、組織	動物実験を 3R に配慮して適切に実施する規定及び体制は整っていると考える。
動物実験委員会	動物実験が適切に実施される上で、委員会は適切に機能していると考ええる。不測の事態に対応できる規定は整備された。
動物実験計画書	動物実験開始前に、動物実験委員会による審議が行われ NAS 研所長による承認を得て実施されていることが改めて確認された。様式が改定され、より審議しやすくなった。
教育訓練	社内研修会 8 回、社外研修会 6 回、新人研修や飼育現場での研修会を 33 回行っており、知識や技術の向上、共有化を図っている。同研修報告書は NAS 研所長の確認を得る様式であり、機関の長が、教育訓練の成果を把握することができる。
自己点検・評価	動物実験委員及び動物実験実施者による自己点検調査報告書の作成を行い、課題点の抽出が具体的に行われていると考える。
動物実験の実施	承認された動物実験計画書に基づいて試験が実施され、変更・中止、終了の手続きがとられ、必要に応じて動物実験委員会の審議を経ている。 動物種ごとに対応した飼育管理の指針の追加が必要である。
麻酔薬、向精神薬	麻酔薬、向精神薬の取扱は、法に基づいて適切に行われているが、その他の薬品も含め、使用記録の SOP を定める必要がある。
飼育管理	動物実験実施者の多くは実験動物技術者 2 級以上の資格を有しており、飼育管理に精通している。
施設・設備	大きな変更はないが、成田試験場第 3 号動物舎のダムウェーターに、害虫進入防止用網戸を追加で取り付けた。
安全管理	教育訓練をとおして、動物、作業従事者及び環境にとって安全であることに努めている。
その他	動物実験の方法を定めた SOP の充実を、継続して行っている。
NAS 研所長署名	荻森 一郎 2019 年 10 月 3 日